

放射線生物研究センター

I	研究水準	研究 32-2
II	質の向上度	研究 32-2

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、発表論文数は、過去4年間に英文論文96件（ほかに和文論文20件）、このうち査読制度のある国際学術雑誌は91件であり、相応な水準にある。研究資金の獲得状況については、平成19年度の文部科学省研究費の特定領域研究、基盤研究、萌芽研究の補助金額（採択件数）は、71,400千円（採択件数10件）となっているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「共同利用・共同研究の実施状況」のうち、法人化後4年間の共同利用採択課題数は年平均39件であり、平均利用者数は年平均142名であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、放射線生物研究センターの目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、放射線生物研究センターが想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、放射線影響の基礎研究として、DNA修復とチェックポイントに関する研究成果を上げている。これらの研究は、発がん機構の解明の前進に貢献しているなどの相応な成果である。

以上の点について、放射線生物研究センターの目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、放射線生物研究センターが想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。